

# 第9節

## まちづくりの基本理念 を実現するために



### 施策 30 平和・国際交流施策の推進

目的	対象	市民
	意図	平和の尊さを理解し、後世に語り継いでいく 多様な文化が尊重される、多文化共生を推進する

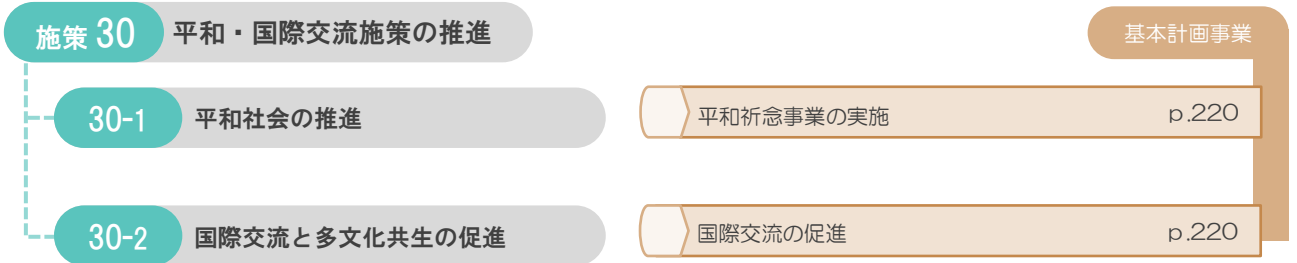
#### 施策の方向

市民一人一人が、国際交流を通じた相互の理解を深める中で、多様な文化が尊重され、平和に暮らすことができる共生のまちづくりを進めます。

#### 施策のポイント

- 中学生の被爆地への派遣事業をはじめ、広く市民が平和の尊さについて考える機会の創出
- ラグビーワールドカップ2019™日本大会・東京2020大会を契機とした多文化共生のまちづくりの推進

#### 基本的取組の体系



#### 現状と課題

○ 調布市は、「調布市非核平和都市宣言（調布市議会）」、「調布市国際交流平和都市宣言（調布市）」の2つの平和宣言を行っています。また、平成22（2010）年8月には、核兵器のない平和な世界の実現を目的とした「平和市長会議」（平成25（2013）年8月から「平和首長会議」）に加盟し、平和を希求する立場から、継続的に平和に関する事業に取り組んでいます。



市役所前庭にある「平和の塔」

基本目標9

施策 30 平和・国際交流施策の推進

- 令和2（2020）年で戦後75年が経過します。戦争の悲惨さや平和の尊さを風化させることなく、若い世代に着実に継承していくための取組を引き続き推進していく必要があります。
- 東京都は、多文化共生推進の基本的な考え方と施策の方向性を示した東京都多文化共生推進指針を平成28（2016）年2月に策定し、日本人と外国人が共に参加・活躍できる多文化共生社会の実現に向け、様々な取組を推進しています。
- 調布市は、2002年サッカーワールドカップ日韓大会でサウジアラビア代表チームのキャンプ地として公認され、これまでに多くの市民が様々なイベント等を通じてサウジアラビアとの交流を続けてきました。また、東京2020大会では、調布市が同国のホストタウンとして承認され、平成30（2018）年6月には、アラブイスラーム学院と調布市との間で相互友好協力協定を締結するなど、その交流を更に発展させています。
- 調布市は、平成27（2015）年11月に、カナダ・ケベック州と映画産業の交流に加えて、文化・芸術などの文化的交流を視野に入れた包括連携についての共同宣言を行いました。
- 調布市国際交流協会（CIFA）では、外国人に対して交流機会、日本語学習機会などの提供や、子育て中の外国人への支援などを行っています。また、国際交流・多文化共生事業において市民への交流機会を提供しています。
- 東京2020大会の開催に伴い、国内外から多くの方が調布市を訪れることが想定されます。言葉や生活習慣などの異なる多様な文化を互いに理解し合い、地域社会の仲間として共に暮らしていくことができる多文化共生社会の実現に向け、関係機関との連携・協力の下、外国人市民の生活支援や日本人市民との交流・共生を深める取組を推進していく必要があります。



サウジアラビア文化展の様子

## 基本的取組の内容

### 30-1 平和社会の推進

#### ◆平和祈念事業の実施

幅広い年齢層の市民に平和について考える機会を提供するため、身近な場所やテーマで平和事業を開催するほか、中学生の被爆地への派遣事業など、様々な取組を市民とも協働しながら年間を通して実施します。

#### ◆戦争体験の継承

戦争に関する貴重な記憶や体験を若い世代にも着実に引き継ぐため、市内在住の戦争体験者の経験を記録化し、次の世代に継承していきます。また、小・中学校に戦争体験者の記録等の情報提供を行い、子どもの頃から平和の尊さについて考える機会が持てるよう取り組みます。

#### まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
戦争についての話をしたり、聞いたりしたことがある市民の割合	84.9% (平成30(2018)年度)	90.0% (令和4(2022)年度)

## 基本計画事業

No.	95				
事業名	平和祈念事業の実施	区分	拡充	担当課	文化生涯学習課
事業の概要	平和と人権の尊重を基本に、戦争の記憶を風化させることがないように、また、様々な差異を超えて共に生きることをテーマに、平和に関する意識を啓発するために各種平和祈念事業を実施します。				
年度別計画	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
	○各種平和祈念事業の実施 ・ピースレターちょうふ発行 ・原爆展開催 ・戦争体験映像記録作成 ○被爆地への派遣事業の実施	○継続  ○継続	○継続  ○継続	○継続  ○継続	
事業費 (百万円)	3	3	3	3	

## 30-2 国際交流と多文化共生の促進

## ◆国際交流と多文化共生の地域づくり

多様な文化への理解を深め、市民の国際感覚の醸成にも寄与できるよう、市民活動団体等との連携による国際交流事業や、様々な国の歴史や文化を紹介する国際理解講座の実施などにより、国際交流と多文化共生の地域づくりを促進します。

## まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
国際交流・多文化共生事業の参加者数	2,482人 (平成29(2017)年度)	3,000人 (令和4(2022)年度)

## 基本計画事業

No.	96				
事業名	国際交流の促進	区分	継続	担当課	文化生涯学習課
事業の概要	世界の様々な文化や人々との相互の認識と理解を深め、共に暮らしていける地域社会づくりを促進するため、各種国際交流事業を実施します。				
年度別計画	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
	○英語体験事業の実施  ○国際交流事業の推進 ・東京2020大会等の機会をとらえた各種イベントの開催、ボランティア育成、ホストタウン事業の展開	○継続  ○継続 ・継続	○継続  ○継続	○継続  ○継続	
事業費 (百万円)	25	25	24	24	

## 参加と協働の視点

～市民等に期待される役割～

- 市民は、多様な文化への理解を深め、お互いの人権を尊重します。
- 市民は、平和の尊さに対する認識をより一層深め、戦争の記憶を風化させないよう次の世代に伝えます。

### 多様な主体との連携事例

#### ○ 戦争体験映像記録の制作

戦争を体験した世代が年々少なくなっているなか、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に語り継ぐため、市内に住む戦争体験者に自身の体験を語っていただき、その様子を映像に記録したDVDを制作し、保存していく事業を実施しています。DVDは、市内小・中学校に配付するとともに、幅広く市民が活用できるよう、市内図書館やYouTubeで閲覧できるようになっています。

【所管課】文化生涯学習課

【協働のパートナー】市民



<調布市戦争体験映像記録>

#### ○ 小学生英語体験事業

東京2020大会に向けた取組の一つとして、小学生を対象に平成28（2016）年度から小学生英語体験事業を実施しています。夏季休暇期間を利用して、子どもたちが外国人講師と交流を通じて楽しみながら英語を学ぶことで、英語への関心や学習意欲の向上とともに、国際交流や多文化理解の促進につなげています。

【所管課】文化生涯学習課

【協働のパートナー】調布市国際交流協会



<小学生英語体験事業の様子>